

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年1月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3893200034
事業所名	グループホーム さくらや
(ユニット名)	わかば
記入者(管理者)	
氏名	森崎 阿里
自己評価作成日	2019年 12月 12日

<p>【事業所理念】 わが家のようにゆったりほっこり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・全職員間で入所者それぞれの介護計画の内容を共有できるよう全体ミーティングで見直しのあった計画の説明をする取り組みをしたが、計画作成者が出席できないときがあったり、他の検討内容が多く時間的に厳しいことも多く、結局取り組みが途絶えた。 ・月一全体ミーティングで課題の大きな利用者のカンファレンスを実施することで課題の共有と緊急の課題への対応を全体で行えるようになった。 ・テラスを拡張したことで重度者も戸外に出て過ごす機会が増えた。 ・運営推進会議で外部評価の結果を報告し、第三者の意見等ももらえ、その後の取り組みに活かした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 島内唯一の入居施設として地域の期待を受けて設立した経緯があり、関係機関と連携しながらネットワークを着実に広げており、住民に活動が評価されて信頼される事業所になっている。利用者は一人ひとりの特技を活かして自由に過ごしており、毎日の散歩を日課にしている人、近くの福祉センターで行われているさくらカフェに通う人、菜園で農作業をする人等、利用者が思い思いに行動できるよう支援している。また、年間を通して地域との多彩な交流の機会があり、地域に浸透して馴染みの関係が構築されている。特に隣接する小学校との交流の機会は多く、利用者が小学校の図書整理ボランティアに出かけたり、小学生が事業所に遊びに来たりする自然な交流が生まれている。さらに、家族の要望に応えて看取りケアにも取り組んでおり、協力医と事業所看護師、職員が良好なチームケアを実施して看取っている。関係機関と緊密な連携のもと、利用者が住み慣れた島で暮らし続けられるような取組みをしている事業所である。</p>
------------------------------------	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	無理強いはいしない。「したい」ということはできる限りしてもらっている。	◎	/	○	現在、思いや希望を表出できる利用者は多く、日常会話の中から丁寧に聴き取って受け止め、それが実現できるよう努めている。介護計画更新時は、改めて思いや意向を聞き取っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の表情や動作を観察して介護をしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	近くに家族がいる場合はよく話をしているが、遠方の家族の場合難しいケースもある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	サービス計画に記録している。また、日々の様子も記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	そのように留意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時の聞き取り、入所後の会話のなかから本人の生活歴や思いを聞き取っている。	/	/	△	入居時に本人や家族から生活歴や暮らしの様子を聴取して簡潔に記録しているが、こだわりや大切にしてきたこと等の情報が少ないと思われる。入居後に日常の関わりや観察を通して把握する情報も多く、利用者の生活背景や暮らしの上でのこだわり、大切にしていた事柄等を記録して情報を共有することを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	なるべくできることは自分でしてもらうようにしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の申し送りや変わった事があれば共有しており、把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安、不安定になっている場合はその都度、対応を職員で話し合っている。月に一度は全職員ミーティングで検討もしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	それぞれの希望にそった生活リズムで生活してもらっている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	日常的に職員間でケアについて話し合っているし、利用者ともよくコミュニケーションをとっている。	/	/	○	計画作成担当者が中心になって利用者が明るく笑顔で過ごせるよう生活課題を検討している。毎月開催している全体ミーティングで話し合い、利用者が持っている力を発揮してそれまでの暮らしが継続できるよう配慮している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	日常的に職員間でケアについて話し合っているし、利用者ともよくコミュニケーションをとっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	課題を明らかにし、より良く暮らせるように改善に取り組んでいる。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	そのようになっている。				利用者と家族の意向を丁寧に聞き取り、それが反映できるよう検討しており、遠隔地に住む家族に対しては、都合に合わせてサービス担当者会議を開催して話し合っている。医療的課題については、事業所看護師と協力医が連携を取り、介護計画に反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族、本人、職員からの聞き取りから作成しているが、その他の関係者までは難しい部分がある。	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	そのようにしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	計画に関しては事業所内のことに留まっている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	共有しようと取り組んでいるがなかなかうまくいかない。				前年度、全体ミーティングで介護計画の共有に努めたが、時間的制約のため十分な成果が得られなかった。職員全員が介護計画を理解し、常に意識しながらサービスの提供が行われ、その記録がモニタリングに反映されるよう工夫することを期待したい。サービス実施記録に長・短期目標を記載し、実施状況を記録して評価しており、利用者の暮らしの様子や支援内容は介護記録に個別に記録している。気づきや工夫はメモ用紙に記入して介護記録にとじたり、申し送りノートに記入して電子媒体を活用したりして共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録の中にそれぞれの目標を載せており、評価している。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個人記録に記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個人記録に記録している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6ヶ月に一度見直しをしている。				毎月状況確認を行って総評を記入しており、介護計画は6か月ごとに見直しを行い現状に即した内容になっているか話し合っている。また、状態の変化があった場合や退院時はその都度見直しを行い作成しているが、介護計画の見直しを行う際のアセスメントやモニタリングの記録が残されていないため、再アセスメントの過程で、介護計画の目標達成状況と評価を分かりやすく記録し、計画の見直しに反映することを期待したい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に一度は状況のモニタリング記録をつけている。総評も個人記録に記載している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	そのようにしている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急案件は施設長、管理者、ユニットスタッフで話し合っており、それ以外でも常勤や全職員で月に一度は話し合いをしている。				月1回全体ミーティングを開催してケア内容の検討を行っており、緊急時はその都度関係者が集まって協議している。参加できなかった職員はミーティング記録を確認した上でサインをし共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	特に工夫はしていないが、意見はよく出ている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	なるべく、多くの職員が参加できる時間帯で開催している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	欠席者にはミーティング記録を読んでもらい、確認後に名前を書いてもらっている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	ラインと申し送りノートを活用している。				多様な勤務形態があり、その日の勤務職員が一同に会って申し送りを行うことが困難なため、申し送りノートの絶対に伝えたいこと欄に記入して情報の共有に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ラインと申し送りノートを活用している。	○			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	そのようにしている。	/	/	/	利用者一人ひとりの状況に応じて自由に行動ができるよう支援している。その日の気分に合わせて洋服を選ぶことや、複数の飲み物を用意して選ぶことができるようにしている。また、利用者の表情がさえない時は、その原因を考察して笑顔を引き出せるよう優しく声をかけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	そのようにしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	したいことをできるように支援してきたからか、最近では利用者からしたいことをよく言うようになった。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	表情、しぐさ、声の感じなどはよく観察している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が困難でもよく話しかけ、表情の変化やしぐさでコミュニケーションをとっている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権や尊厳をクローズアップした研修会は実施していないが、身体拘束やその他研修で人権や尊厳については触れているし、現場でも声掛けを行っている。	◎	○	○	研修計画の中に取り入れて利用者の人権や尊厳について学ぶ機会があり、利用者の誇りを傷つけないよう言葉遣いにも留意している。親密度が深まり過ぎて度を過ぎた言葉遣いになる場合もあり、その都度個別に注意喚起を行ったり、全員に再考を促したりしている。居室ドアの開閉については利用者の意向に添うようにしているが、無断で入室することがあり、利用者の了承を得てから入室するよう徹底して欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	ほとんどの職員が配慮した言葉がけをしているが、ときどき配慮を欠く発言をする職員もいる。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら助助を行っている。	◎	配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	基本的には室内への入室は許可を得てから行っているが認知症による収集癖のある利用者の部屋に限り定期的に不在時に持ち物の確認をしている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	しっかりと築けている。	/	/	/	外出時に車いすを押したり、高い所の物を取ったりする利用者があり、日常生活の中で利用者同士で助け合い、役割分担をする場面が多みられる。職員は利用者同士の関係をよく把握し、不穏な雰囲気になりそうな時は、職員が仲介しトラブルを未然に防ぐようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	しっかりと理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	鋭意努力しているが、難しい場面もある。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	鋭意努力しているが、難しい場面もある。	/	/	/	

愛媛県グループホームさくらや

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	島内の利用者に関してはよく把握できている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握するよう努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	そのように努めている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	気軽に来てゆっくりできるように配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	なるべく希望通りに過ごせるようかなり努力している。	◎	◎	◎	毎日の散歩を日課にしている人、近くの福祉センターで行われている「さくらカフェ」に通う人、菜園で農作業をする人等、利用者一人ひとりが思い思いに行動できるよう支援している。また、地元の公民館で開催されるサロンに参加し、祭りや文化祭等の行事にも参加している。重度の利用者を含め、容易に戸外に出ることができるようテラスを拡張したほか、大型車両を購入して島一周ドライブに出かける等、利用者が気分転換できるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	サロンやカフェなど地域のかと理解を得て外出している。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	天気がよければ車椅子で散歩に出たり、小学校に遊びに行ったりしている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族が連れだしてくれることもあるし、みんなで大きな車に乗ってドライブすることもある。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	まだまだ学ぶ必要はあるが、要因をひもとき、取り除くケアに努めている。				近隣の小学校や公園に散歩に出かける機会が多く、小高い所にある菜園にも登れるよう手すりを設置し、活動的に生活できるようにしており、利用者が持っている能力に応じて、できるだけ自立して生活できるように支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	様子をよく観察し、身体機能の維持に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	十分に行っている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	できること、したい気持ちを大切にしている。				利用者のしたいと思う気持ちを大切に受け止め、それが実現できるよう支援している。野菜やしめ縄作り、クラフト作品や多肉植物の寄せ植えを文化祭に出展したり、小学校図書館に図書整理ボランティアに出かけたりしている。洗濯物干しや片付け等は利用者同士が話し合って役割分担している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	できること、したい気持ちを大切にしている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域に積極的に出ていくようにしている。				

愛媛県グループホームさくらや

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	そのようにしている。				利用者は清潔に容姿を整えて過ごしており、化粧やマニキュアをしておしゃれを楽しんでいる利用者もいる。不適切な服装に気づいた時は、声をかけて居室で着替えてもらうよう配慮している。重度の利用者を含め、毎日好みの衣服に着替え髪型もきれいに整える等、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	それぞれが好みの服を着ている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	「これにしようか」や「これがかわいいよね」と声をかけながら服を決めている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	敬老会などには家族に協力してもらい、ドレスアップしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	あまりさりげなくはカバーしていない。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族にお願いしている。家族が協力できない利用者はボランティアの方に切ってもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	なるべくそのようにしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	個人差はあるが概ね理解している。				利用者はじゃがいもの皮むき等、野菜の下ごしらえや後片付けと一緒にやっている。管理者は管理栄養士の資格を有しており、栄養バランスを考えて献立を作成しており、家庭で食べ慣れた料理や季節ごとの献立を取り入れている。野菜や魚の差し入れがある時は、その日の献立を変更することもあり、調査当日の料理には菜園で収穫した大根が添えられていた。食器は昔懐かしい物を使用しており、握力の弱い利用者には軽い食器を用意して配慮している。職員も同じ食卓を囲み同じものを食べながら、さりげない声かけを行って和やかな雰囲気のある食事風景であった。重度の利用者を含め、食事の雰囲気が味わえるよう同じ食卓で、職員の献立の話に耳を傾けながら一緒に食べている。利用者の栄養面については、定期的に話し合う等常に気をつけており、バランスよく栄養が摂れるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	配膳や後片付けは利用者が行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	配膳や後片付けは利用者が行っている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握はしているが、アレルギー以外では配慮していない。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節で献立を変えている。家庭で食べなれた献立を意識している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	なるべく皆と同じように食べられるように工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	普通家庭で使うような食器を使っている。食器を持ち上げる力がない利用者のみプラスチック食器を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	そのようにしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	皆と一緒に席についている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	喫食率のチェックと月に一度体重測定をして管理している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	そのようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	管理栄養士が献立を立てているが、食べにくい献立などについては職員が伝えて変更している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	そのようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解している。				月1回歯科衛生士が訪れて、利用者一人ひとりの口腔内をチェックし、予防や早期治療を行っている。毎食後口腔ケアを念入りに行い、義歯洗浄も定期的に行い、汚れや臭いがなく清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	把握しているし、月に一度、歯科衛生士のチェックも受けている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	そのようにしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	そのようにしている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	そのようにしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	概ね理解している。				排泄状態のチェックを行い、排泄パターンを把握して誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。現在布及び紙パンツを使用しており、安全のため夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。また、排泄量や時間帯に合わせて適切な排泄用品が使用できるよう、職員が話し合い検討する等、その時の状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	概ね理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	概ね理解している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	うまくいっていないが一生懸命取り組んでいる。		◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	うまくいっていないが一生懸命取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	△	重度の方以外は排泄の誘導は行っていない。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	×	本人が紙パンツを受け入れることはなかなか難しく、移行に苦戦している。本人の好みとかの次元ではない。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	×	使い分けたりはしていない。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	そのようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	曜日は決めているが、時間に関しては利用者の希望をなるべく反映させている。		◎	○	家庭用和式浴槽に週3回入浴できるよう支援している。時間帯や湯温、入浴時間を個別に対応する等、利用者の要望にも応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	そのようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いしていないが、入浴回数を確保できていない。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	そのようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	概ね把握している。	/	/	/	日中は活動的に過ごしたり、夜は灯りの照度を調整したりする等、安心して眠れるよう支援しており、安易に薬剤には頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	そのようにしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	好きなように昼寝したり休んだりしている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	特に工夫はしていない。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人から電話をかけることについては家族の理解を得ているが電話や手紙をくれるようお願いはしていない。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	希望にそって買い物に連れて行っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	特に働きかけをしていないが、理解、協力は得られている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に話し合っている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預り金を作っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	なるべく家族、利用者の意向に沿う支援をおこなっている。	◎	/	○	島内医療機関に家族が付き添えない場合は、職員が付き添っている。島外の専門科医療機関に受診する際は、有料の制度を設けている。歯科受診後の迎えを頼まれ、帰宅途中で買い物に立ち寄ったり、島外の病院に入院した友人を見舞いたいと希望する利用者につき添ったりすることもある等、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	4月から11月ごろまで玄関は日中網戸にしてある。	◎	◎	○	玄関に続く沿道には春の花々がきれいに植えられている。玄関横にテラスがあり、利用者は共用スペースから直接出入りすることができる等開放的であり、親しみやすく和やかな雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	そうなるように配慮している。	◎	○	○	共用空間は明るく清潔で、アイランドキッチンといす席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。CDラジカセやパズル、トランプ、囲碁、オセロ等が手の届く場所に置かれ、自由に取り出すことができる。清掃がきれいに行き届き、気持ちがよく清潔感がある。玄関や食卓には季節の生花が飾られ、掲示板には利用者が年の始めに描いた思いが飾られている等、ゆったり過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	そうしている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	工夫している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	工夫している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	構造上浴室内部は共有空間からは見えにくい。トイレは必ず戸を開めるようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	△	あまり気にしていない。	◎		○	事業所が用意したベッドやテレビ、好みの家具、位牌を置く等、思い思いの居室となっており、居心地良く過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	配慮している。			○	事業所内はバリアフリー構造で、ベランダやテラスにも容易に出ることができる。トイレ表示は大きくして、居室入口も門札を飾る等間違えないよう工夫しており、安心して自立した生活が送れるようになっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	環境について職員間で話し合っており整えている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	そのようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	理解している。	◎	◎	◎	職員は施錠することの弊害を理解しており、日中玄関等は鍵をかけておらず、いつでも自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	そのようにしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関の横に事務所があり、出入りを概ね確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	概ね把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	そのようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	そのようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	△	立地的に主治医は島内診療所としており、それ以外は家族対応としている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	そのように努めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	△	あまりそのような話し合いをしたことがない。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には必ず病院にサマリーを送っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	容体等に関する問い合わせを定期的に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	地域連携室とは顔見知り程度である。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常的に看護師と介護職員は密にコミュニケーションをとれている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	そのような体制を作っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	そのようにしているが、立地的に医療の種類が限られている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	特筆すべき内容に関しては看護師から説明がされている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	そのようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	看護師が確認し、気になる場合は診療所に相談している。				

愛媛県グループホームさくらや

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	そのようにしている。	/	/	/	重度化した場合の対応にかかる指針に基づき、看取りケアを実施しており、過去に3名の看取りの実績がある。重度化した際は、家族や主治医等関係者と相談しながら方針を共有して看取りケアを実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	そのようにしている。	◎		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族・医療機関と連携して看取りを行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	配慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の研修を実施している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	対応の仕方は研修の際確認しているが、日ごからの訓練などは行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	そのように努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	そのようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	声掛けを行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	近くに住む家族にはいろいろと協力してもらえているが遠方の家族は難しい。	/	/	/	島内に住む家族も多く、頻回に来訪して外出や身の回りの世話をやっている。遠方に住む家族に対しては毎日のブログ更新や、月1回の事業所便りの発行で利用者の暮らしの様子を伝えている。また、年に2回家族会を開催して運営上の事柄や暮らしの様子、職員の異動等について報告し、理解や協力が得られるようにしている。家族の面会時には、その都度声をかけて利用者の状況を報告し、家族からの要望等を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	そのように努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	散歩や歌を一緒に歌っていることがある。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	ほぼ毎日のブログの更新と月に1度、「たより」を送っている。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	変わったことがあれば報告するようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	そのようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	月に一度のお便りでお知らせしている。	◎	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年に2回家族会を開いているが家族同士の交流はあまりない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	そのようにしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	訪問時にはかならず声をかけるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	家族会で周知している。家族会欠席者にも文書を送り伝えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	そのように努めている。	/	◎	/	年間を通して多彩な交流の機会があり、地域に浸透して馴染みの関係を構築している。文化祭や産業祭り、地区運動会等の地域行事、社会福祉協議会のサロンへの参加や、さくらカフェの定期開催のほか、保育園児や小・中学生との交流を盛んに行っている。とりわけ隣接する小学校との交流の機会は多く、利用者が小学校の図書整理ボランティアに出かけたり、小学生が事業所に遊びに来たりする自然な交流が生まれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	できている。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	理解されてきていると感じる。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	あまり立ち寄ることはないが、道であつたらよくお話をしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	あまり立ち寄ることはないが、道であつたらよくお話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	努力している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	そのようにしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	そのように努めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加がある。	/	○	○	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、小・中学校教諭等が参加して充実した内容で協議されており、活動報告や評価への取り組み状況について報告した後、意見や助言を得ている。管理者は話し合いを通じて事業所理解が深まり、連携が広がっていると実感している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	報告している。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	配慮している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	かくしていないが公表していない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	そのように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	あまり理念をお知らせする機会がない。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	そのように取り組んでいる。				代表者は頻繁に事業所を訪れて職員の状況を把握しており、意思疎通を図っている。また、年間研修計画を策定して研修助成制度を設け、職員の要望に応えているほか、希望休等にも応じ状況に合わせてシフトを組む等、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	そのように取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	そのように取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	そのように取り組んでいる。		◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	理解している。				言葉による拘束も含め、不適切なケアが行われていないか常に意識しており、気付いた時は注意し合う等対応方法や手順等について、ミーティングで共有して自覚を促している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	仕事の始まりや終わりにその日の出来事を話すことが多い。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切ケアが起きてないか注意しており、何かあれば管理者や代表に相談が来る。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	注意を払い、対応をとっている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修で学んでいる。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修でそのような機会を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	そのようにしている。				

愛媛県グループホームさくらや

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	事業所外研修に一度参加した。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行っていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談があればつなぐことはできる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応はミーティングで全員で確認している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練は定期的に行っているが実際事例は少なく、実際の現場ではなかなか落ち着いて対応するのが難しいのが現状。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	全体ミーティング等で毎回検討し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応のマニュアルはない。苦情は施設長が管理者が対応する。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	そのようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	そのようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	計画作成のときに特に訊いている。			○	利用者には日常会話の中から要望を聞き取り、それが実現できるよう努めている。家族からは運営推進会議や家族会、面会時等に要望を聞いている。管理者と職員は日頃から何でも言い合える関係が築けており、業務をしながら意見や要望等を言うことができる等、職員は自由に意見を言いやすい環境であると認識しており、良好なケアチームが形成されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	ここに連絡をとったときに要望や相談を聞き取っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	窓口の情報提供は行っていないが相談などは窓口には届いている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	◎	そのようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	そのようにしている。			○	

愛媛県グループホームさくらや

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。				自己評価の段階で1年間の活動の実施状況を踏まえ、到達点と課題を明確にすることができたと実感しており、目標達成計画に真摯に取り組み、努力してサービスの向上に努めている。運営推進会議で家族等参加者に報告して意見ももらう等、参加者にモニターをしてもらっておりサービス向上に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	ミーティングで評価結果をフィードバックした。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	してもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	実施した。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、地震の対応マニュアルは作っている。				消防署立ち会いのもとで実施する定期的な避難訓練のほか、地区防災訓練に参加して連携を図っている。現在、防災面でも町社会福祉協議会と連携を密にし、緊急災害時の安全確保に万全を期すため、地域との具体的な協力体制の構築に努めている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルに基づいた避難訓練をしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	社協さんと連携についての話し合いをしたり、交流会をしたりしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災訓練には参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	季刊紙の発行や、勉強会の実施に取り組んでいる。				島内唯一の入居施設として地域の期待を受けて設立した経緯があり、関係機関と連携しながらネットワークを着実に広げており、住民に活動が評価されて信頼される事業所になっている。相談支援はもちろん、さくらカフェの取組み、デイサービスやショートステイの柔軟な対応により在宅介護支援の実績を挙げている。地域に発信するグループホームさくらや便りは認知症高齢者の思いを代弁する内容で、認知症ケアの啓発に貢献すると期待される。地域に根差したケア拠点の事業所としての名を確立しつつある。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	さくらカフェ、茶話会などをしている。直接相談もしている。		○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	さくらカフェを運営している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	そのようにしている。。			◎	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和2年1月10日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3893200034
事業所名	グループホーム さくらや
(ユニット名)	さくら
記入者(管理者)	
氏名	森崎 阿里
自己評価作成日	2019年 12月 12日

<p>【事業所理念】 わが家のようにゆったりほっこり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・全職員間で入所者それぞれの介護計画の内容を共有できるよう全体ミーティングで見直しのあった計画の説明をする取り組みをしたが、計画作成者が出席できないときがあったり、他の検討内容が多く時間的に厳しいことも多く、結局取り組みが途絶えた。 ・月一全体ミーティングで課題の大きな利用者のカンファレンスを実施することで課題の共有と緊急の課題への対応を全体で行えるようになった。 ・テラスを拡張したことで重度者も戸外に出て過ごす機会が増えた。 ・運営推進会議で外部評価の結果を報告し、第三者の意見等ももらえ、その後の取り組みに活かした。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 島内唯一の入居施設として地域の期待を受けて設立した経緯があり、関係機関と連携しながらネットワークを着実に広げており、住民に活動が評価されて信頼される事業所になっている。利用者は一人ひとりの特技を活かして自由に過ごしており、毎日の散歩を日課にしている人、近くの福祉センターで行われているさくらカフェに通う人、菜園で農作業をする人等、利用者が思い思いに行動できるよう支援している。また、年間を通して地域との多彩な交流の機会があり、地域に浸透して馴染みの関係が構築されている。特に隣接する小学校との交流の機会は多く、利用者が小学校の図書整理ボランティアに出かけたり、小学生が事業所に遊びに来たりする自然な交流が生まれている。さらに、家族の要望に応えて看取りケアにも取り組んでおり、協力医と事業所看護師、職員が良好なチームケアを実施して看取っている。関係機関と緊密な連携のもと、利用者が住み慣れた島で暮らし続けられるような取組みをしている事業所である。</p>
------------------------------------	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	無理強いはいしない。「したい」ということはできる限りしてもらっている。	◎	/	○	現在、思いや希望を表出できる利用者は多く、日常会話の中から丁寧に聴き取って受け止め、それが実現できるよう努めている。介護計画更新時は、改めて思いや意向を聞き取っている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	◎	本人の表情や動作を観察して介護をしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	近くに家族がいる場合はよく話をしているが、遠方の家族の場合難しいケースもある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	サービス計画に記録している。また、日々の様子も記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	そのように留意している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時の聞き取り、入所後の会話のなかから本人の生活歴や思いを聞き取っている。	/	/	△	入居時に本人や家族から生活歴や暮らしの様子を聴取して簡潔に記録しているが、こだわりや大切にしてきたこと等の情報が少ないと思われる。入居後に日常の関わりや観察を通して把握する情報も多く、利用者の生活背景や暮らしの上でのこだわり、大切にしていた事柄等を記録して情報を共有することを期待したい。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	なるべくできることは自分でしてもらうようにしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	日々の申し送りや変わった事があれば共有しており、把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	不安、不安定になっている場合はその都度、対応を職員で話し合っている。月に一度は全職員ミーティングで検討もしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	それぞれの希望にそった生活リズムで生活してもらっている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	日常的に職員間でケアについて話し合っているし、利用者ともよくコミュニケーションをとっている。	/	/	○	計画作成担当者が中心になって利用者が明るく笑顔で過ごせるよう生活課題を検討している。毎月開催している全体ミーティングで話し合い、利用者が持っている力を発揮してそれまでの暮らしが継続できるよう配慮している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	日常的に職員間でケアについて話し合っているし、利用者ともよくコミュニケーションをとっている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	課題を明らかにし、より良く暮らせるように改善に取り組んでいる。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	そのようになっている。				利用者と家族の意向を丁寧に聞き取り、それが反映できるよう検討しており、遠隔地に住む家族に対しては、都合に合わせてサービス担当者会議を開催して話し合っている。医療的課題については、事業所看護師と協力医が連携を取り、介護計画に反映させている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族、本人、職員からの聞き取りから作成しているが、その他の関係者までは難しい部分がある。	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	そのようにしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	計画に関しては事業所内のことに留まっている。				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	△	共有しようと取り組んでいるがなかなかうまくいかない。				前年度、全体ミーティングで介護計画の共有に努めたが、時間的制約のため十分な成果が得られなかった。職員全員が介護計画を理解し、常に意識しながらサービスの提供が行われ、その記録がモニタリングに反映されるよう工夫することを期待したい。サービス実施記録に長・短期目標を記載し、実施状況を記録して評価しており、利用者の暮らしの様子や支援内容は介護記録に個別に記録している。気づきや工夫はメモ用紙に記入して介護記録にとじたり、申し送りノートに記入して電子媒体を活用したりして共有している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々の記録の中にそれぞれの目標を載せており、評価している。				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個人記録に記録している。				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	個人記録に記録している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	6ヶ月に一度見直しをしている。				毎月状況確認を行って総評を記入しており、介護計画は6か月ごとに見直しを行い現状に即した内容になっているか話し合っている。また、状態の変化があった場合や退院時はその都度見直しを行い作成しているが、介護計画の見直しを行う際のアセスメントやモニタリングの記録が残されていないため、再アセスメントの過程で、介護計画の目標達成状況と評価を分かりやすく記録し、計画の見直しに反映することを期待したい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	月に一度は状況のモニタリング記録をつけている。総評も個人記録に記載している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	そのようにしている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	緊急案件は施設長、管理者、ユニットスタッフで話し合っており、それ以外でも常勤や全職員で月に一度は話し合いをしている。				月1回全体ミーティングを開催してケア内容の検討を行っており、緊急時はその都度関係者が集まって協議している。参加できなかった職員はミーティング記録を確認した上でサインをし共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	特に工夫はしていないが、意見はよく出ている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	なるべく、多くの職員が参加できる時間帯で開催している。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	欠席者にはミーティング記録を読んでもらい、確認後に名前を書いてもらっている。				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	◎	ラインと申し送りノートを活用している。				多様な勤務形態があり、その日の勤務職員が一同に会って申し送りを行うことが困難なため、申し送りノートの絶対に伝えたいこと欄に記入して情報の共有に努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	ラインと申し送りノートを活用している。	○			

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	そのようにしている。	/	/	/	利用者一人ひとりの状況に応じて自由に行動ができるよう支援している。その日の気分に合わせて洋服を選ぶことや、複数の飲み物を用意して選ぶことができるようにしている。また、利用者の表情がさえない時は、その原因を考察して笑顔を引き出せるよう優しく声をかけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	そのようにしている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	利用者からしたいことを伝える場面は少ないが、いろいろな提案をし、どうするか利用者によって決めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	概ねそのようにしている。起床・就寝時間に関しては限られた職員で着替えの介助をしていかなければならないので利用者の希望が優先しにくい場面である。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	表情、しぐさ、声の感じなどはよく観察している。	/	/	◎	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	意思疎通が困難でもよく話しかけ、表情の変化やしぐさでコミュニケーションをとっている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	人権や尊厳をクローズアップした研修会は実施していないが、身体拘束やその他研修で人権や尊厳については触れているし、現場でも声掛けを行っている。	◎	○	○	研修計画の中に取り入れて利用者の人権や尊厳について学ぶ機会があり、利用者の誇りを傷つけないよう言葉遣いにも留意している。親密度が深まり過ぎて度を過ぎた言葉遣いになる場合もあり、その都度個別に注意喚起を行ったり、全員に再考を促したりしている。居室ドアの開閉については利用者の意向に添うようにしているが、無断で入室することがあり、利用者の了承を得てから入室するよう徹底して欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	ほとんどの職員が配慮した言葉がけをしているが、ときどき配慮を欠く発言をする職員もいる。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	清掃や入浴時の衣類の準備などに限り断りなく入室している。プライバシーへの配慮の持ち物を勝手に動かさないなどのマナーは守っている。認知症による収集癖のある利用者の部屋に限り定期的に不在時に持ち物の確認をしている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	しっかりと築けている。	/	/	/	外出時に車いすを押したり、高い所の物を取ったりする利用者があり、日常生活の中で利用者同士で助け合い、役割分担をする場面が多みられる。職員は利用者同士の関係をよく把握し、不穏な雰囲気になりそうな時は、職員が仲介しトラブルを未然に防ぐようにしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	しっかりと理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	鋭意努力しているが、難しい場面もある。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	鋭意努力しているが、難しい場面もある。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	島内の利用者に関してはよく把握できている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	把握するよう努めている。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	そのように努めている。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	気軽に来てゆっくりできるように配慮している。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	なるべく希望通りに過ごせるようかなり努力している。	◎	◎	◎	毎日の散歩を日課にしている人、近くの福祉センターで行われている「さくらカフェ」に通う人、菜園で農作業をする人等、利用者一人ひとりが思い思いに行動できるよう支援している。また、地元の公民館で開催されるサロンに参加し、祭りや文化祭等の行事にも参加している。重度の利用者を含め、容易に戸外に出ることができるようテラスを拡張したほか、大型車両を購入して島一周ドライブに出かける等、利用者が気分転換できるようにしている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	◎	サロンやカフェなど地域のかと理解を得て外出している。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	◎	天気がよければ車椅子で散歩に出たり、小学校に遊びに行ったりしている。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族が連れだしてくれることもあるし、みんなで大きな車に乗ってドライブすることもある。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	まだまだ学ぶ必要はあるが、要因をひもとき、取り除くケアに努めている。				近隣の小学校や公園に散歩に出かける機会が多く、小高い所にある菜園にも登れるよう手すりを設置し、活動的に生活できるようにしており、利用者が持っている能力に応じて、できるだけ自立して生活できるように支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	様子をよく観察し、身体機能の維持に努めている。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	十分に行っている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	できること、したい気持ちを大切にしている。				利用者のしたいと思う気持ちを大切に受け止め、それが実現できるよう支援している。野菜やしめ縄作り、クラフト作品や多肉植物の寄せ植えを文化祭に出展したり、小学校図書館に図書整理ボランティアに出かけたりしている。洗濯物干しや片付け等は利用者同士が話し合って役割分担している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	できること、したい気持ちを大切にしている。	◎	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	重度者が多く、地域のなかで役割を持つことが難しい。				

愛媛県グループホームさくらや

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	身だしなみには配慮している。				利用者は清潔に容姿を整えて過ごしており、化粧やマニキュアをしておしゃれを楽しんでいる利用者もいる。不適切な服装に気づいた時は、声をかけて居室で着替えてもらうよう配慮している。重度の利用者を含め、毎日好みの衣服に着替え髪型もきれいに整える等、その人らしさが保てるようにしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	おかしなく、生活しやすい服を職員が組み合わせることが多い。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人が来たがらない服は着せない。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時にはかならず着替えて汚れ等のない状態で送り出している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	あまりさりげなくはカバーしていない。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族にお願いしている。家族が協力できない利用者はボランティアの方に切ってもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	なるべくそのようにしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	個人差はあるが概ね理解している。				利用者はじゃがいもの皮むき等、野菜の下ごしらえや後片付けと一緒にやっている。管理者は管理栄養士の資格を有しており、栄養バランスを考えて献立を作成しており、家庭で食べ慣れた料理や季節ごとの献立を取り入れている。野菜や魚の差し入れがある時は、その日の献立を変更することもあり、調査当日の料理には菜園で収穫した大根が添えられていた。食器は昔懐かしい物を使用しており、握力の弱い利用者には軽い食器を用意して配慮している。職員も同じ食卓を囲み同じものを食べながら、さりげない声かけを行って和やかな雰囲気のある食事風景であった。重度の利用者を含め、食事の雰囲気が味わえるよう同じ食卓で、職員の献立の話に耳を傾けながら一緒に食べている。利用者の栄養面については、定期的に話し合う等常に気をつけており、バランスよく栄養が摂れるようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	下ごしらえは利用者任せにすることも多い。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	下ごしらえは利用者任せにすることも多い。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	把握はしているが、アレルギー以外では配慮していない。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	季節で献立を変えている。家庭で食べなれた献立を意識している。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	なるべく皆と同じように食べられるように工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	普通家庭で使うような食器を使っている。食器を持ち上げる力がない利用者のみプラスチック食器を使用している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	そのようにしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	皆と一緒に席についている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	喫食率のチェックと月に一度体重測定をして管理している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	そのようにしている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	管理栄養士が献立を立てているが、食べにくい献立などについては職員が伝えて変更している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	そのようにしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	理解している。				月1回歯科衛生士が訪れて、利用者一人ひとりの口腔内をチェックし、予防や早期治療を行っている。毎食後口腔ケアを念入りに行い、義歯洗浄も定期的に行い、汚れや臭いが無いよう清潔保持に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	把握しているし、月に一度、歯科衛生士のチェックも受けている。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	そのようにしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	そのようにしている。			◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	そのようにしている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	概ね理解している。				排泄状態のチェックを行い、排泄パターンを把握して誘導し、トイレで排泄ができるよう支援している。現在布及び紙パンツを使用しており、安全のため夜間のみポータブルトイレを使用する利用者もいる。また、排泄量や時間帯に合わせて適切な排泄用品が使用できるよう、職員が話し合い検討する等、その時の状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	概ね理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	概ね理解している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	そのように取り組んでいる。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	そのように取り組んでいる。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	そのように取り組んでいる。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	職員間で随時どの種類のサニタリーが適切かを話し合っている。変更する場合は家族にも説明している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	下着はほとんどの利用者が使っていないが、リハビリパンツ等は状況に応じて使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	そのようにしている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	曜日は決まっている。声をかけて了解を得られた人から順番に入浴してもらっている。	◎		○	家庭用和式浴槽に週3回入浴できるよう支援している。時間帯や湯温、入浴時間を個別に対応する等、利用者の要望にも応じている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	そのようにしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	無理強いはいしていないが、入浴回数を確保できていない。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	そのようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	概ね把握している。				日中は活動的に過ごしたり、夜は灯りの照度を調整したりする等、安心して眠れるよう支援しており、安易に薬剤には頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	そのようにしている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	そのようにしている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	好きなように昼寝したり休んだりしている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	そのようにしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	そのようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	そのようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	×	特に工夫はしていない。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	本人から電話をかけることについては家族の理解を得ているが電話や手紙をくれるようお願いはしていない。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	◎	理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	希望にそって買い物に連れて行っている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	特に働きかけをしていないが、理解、協力は得られている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	そのようにしている。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に話し合っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	預り金を作っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	なるべく利用者、家族の意向に沿う支援をおこなっている。	◎		○	島内医療機関に家族が付き添えない場合は、職員が付き添っている。島外の専門科医療機関に受診する際は、有料の制度を設けている。歯科受診後の迎えを頼まれ、帰宅途中で買い物に立ち寄り、島外の病院に入院した友人を見舞いたいと希望する利用者につき添ったりすることもある等、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	4月から11月ごろまで玄関は日中網戸にしてある。	◎	◎	○	玄関に続く沿道には春の花々がきれいに植えられている。玄関横にテラスがあり、利用者は共用スペースから直接出入りすることができる等開放的であり、親しみやすく和やかな雰囲気である。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	そうなるように配慮している。	◎	○	○	共用空間は明るく清潔で、アイランドキッチンといす席とソファ席があり、利用者は思い思いの場所でくつろいでいる。CDラジカセやパズル、トランプ、囲碁、オセロ等が手の届く場所に置かれ、自由に取り出すことができる。清掃がきれいに行き届き、気持ちが良く清潔感がある。玄関や食卓には季節の生花が飾られ、掲示板には利用者が年の始めに描いた思いが飾られている等、ゆったり過ごせるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	そうしている。				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	工夫している。				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	工夫している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	構造上浴室内部は共有空間からは見えにくい。トイレは戸を開めるようにしている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	△	あまり気にしていない。	◎		○	事業所が用意したベッドやテレビ、好みの家具、位牌を置く等、思い思いの居室となっており、居心地良く過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	配慮している。			○	事業所内はバリアフリー構造で、ベランダやテラスにも容易に出ることができる。トイレ表示は大きくして、居室入口も門札を飾る等間違えないよう工夫しており、安心して自立した生活が送れるようになっている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	環境について職員間で話し合っており整えている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	そのようにしている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らすことへの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	理解している。	◎	◎	◎	職員は施錠することの弊害を理解しており、日中玄関等は鍵をかけておらず、いつでも自由に出入りすることができる。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	そのようにしている。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関の横に事務所があり、出入りを概ね確認している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	概ね把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	そのようにしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	そのようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	△	立地的に主治医は島内診療所としており、それ以外は家族対応としている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	そのように努めている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	△	あまりそのような話し合いをしたことがない。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には必ず病院にサマリーを送っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	容体等に関する問い合わせを定期的に行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	地域連携室とは顔見知り程度である。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常的に看護師と介護職員は密にコミュニケーションをとれている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	そのような体制を作っている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	そのようにしているが、立地的に医療の種類が限られている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	特筆すべき内容に関しては看護師から説明がされている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	そのようにしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	行っている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	看護師が確認し、気になる場合は診療所に相談している。				

愛媛県グループホームさくらや

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	そのようにしている。	/	/	/	重度化した場合の対応にかかる指針に基づき、看取りケアを実施しており、過去に3名の看取りの実績がある。重度化した際は、家族や主治医等関係者と相談しながら方針を共有して看取りケアを実施している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	そのようにしている。	◎	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	家族・医療機関と連携して看取りを行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	配慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の研修を実施している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	対応の仕方は研修の際確認しているが、日ごからの訓練などは行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	そのように努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	そのようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	声掛けを行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	近くに住む家族にはいろいろと協力してもらえているが遠方の家族は難しい。	/	/	/	島内に住む家族も多く、頻回に来訪して外出や身の回りの世話をやっている。遠方に住む家族に対しては毎日のブログ更新や、月1回の事業所便りの発行で利用者の暮らしの様子を伝えている。また、年に2回家族会を開催して運営上の事柄や暮らしの様子、職員の異動等について報告し、理解や協力が得られるようにしている。家族の面会時には、その都度声をかけて利用者の状況を報告し、家族からの要望等を聞くようにしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	そのように努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	散歩や歌を一緒に歌っていることがある。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	ほぼ毎日のブログの更新と月に1度、「たより」を送っている。	/	◎	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	変わったことがあれば報告するようにしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	そのようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	月に一度のお便りでお知らせしている。	◎	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年に2回家族会を開いているが家族同士の交流はあまりない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	そのようにしている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	訪問時にはかならず声をかけるようにしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	そのようにしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	家族会で周知している。家族会欠席者にも文書を送り伝えている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	そのように努めている。	/	◎	/	年間を通して多彩な交流の機会があり、地域に浸透して馴染みの関係を構築している。文化祭や産業祭り、地区運動会等の地域行事、社会福祉協議会のサロンへの参加や、さくらカフェの定期開催のほか、保育園児や小・中学生との交流を盛んに行っている。とりわけ隣接する小学校との交流の機会は多く、利用者が小学校の図書整理ボランティアに出かけたり、小学生が事業所に遊びに来たりする自然な交流が生まれている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	できている。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	理解されてきていると感じる。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	あまり立ち寄ることはないが、道であつたらよくお話をしている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	あまり立ち寄ることはないが、道であつたらよくお話をしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	◎	努力している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	そのようにしている。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	そのように努めている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	参加がある。	/	○	○	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、小・中学校教諭等が参加して充実した内容で協議されており、活動報告や評価への取り組み状況について報告した後、意見や助言を得ている。管理者は話し合いを通じて事業所理解が深まり、連携が広がっていると実感している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	報告している。	/	◎	◎	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	配慮している。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	かくしていないが公表していない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	そのように努めている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	×	あまり理念をお知らせする機会がない。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	そのように取り組んでいる。				代表者は頻繁に事業所を訪れて職員の状況を把握しており、意思疎通を図っている。また、年間研修計画を策定して研修助成制度を設け、職員の要望に応えているほか、希望休等にも応じ状況に合わせてシフトを組む等、職員が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	そのように取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	努めている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	そのように取り組んでいる。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	そのように取り組んでいる。		◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	理解している。				言葉による拘束も含め、不適切なケアが行われていないか常に意識しており、気付いた時は注意し合う等対応方法や手順等について、ミーティングで共有して自覚を促している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	仕事の始まりや終わりにその日の出来事を話すことが多い。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切ケアが起きてないか注意しており、何かあれば管理者や代表に相談が来る。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	注意を払い、対応をとっている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修で学んでいる。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	研修でそのような機会を設けている。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	そのようにしている。				

愛媛県グループホームさくらや

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	事業所外研修に一度参加した。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	行っていない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談があればつなぐことはできる。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応はミーティングで全員で確認している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	訓練は定期的に行っているが実際事例は少なく、実際の現場ではなかなか落ち着いて対応するのが難しいのが現状。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	全体ミーティング等で毎回検討し、事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応のマニュアルはない。苦情は施設長が管理者が対応する。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	そのようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	そのようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	計画作成のときに特に訊いている。			○	利用者には日常会話の中から要望を聞き取り、それが実現できるよう努めている。家族からは運営推進会議や家族会、面会時等に要望を聞いている。管理者と職員は日頃から何でも言い合える関係が築けており、業務をしながら意見や要望等を言うことができる等、職員は自由に意見を言いやすい環境であると認識しており、良好なケアチームが形成されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	ここに連絡をとったときに要望や相談を聞き取っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	窓口の情報提供は行っていないが相談などは窓口に届いている。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	そのようにしている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	そのようにしている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	取り組んでいる。				自己評価の段階で1年間の活動の実施状況を踏まえ、到達点と課題を明確にすることができたと実感しており、目標達成計画に真摯に取り組み、努力してサービスの向上に努めている。運営推進会議で家族等参加者に報告して意見ももらう等、参加者にモニターをしてもらっておりサービス向上に活かしている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	ミーティングで評価結果をフィードバックした。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	取り組んでいる。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	◎	してもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	◎	実施した。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	火災、地震の対応マニュアルは作っている。				消防署立ち会いのもとで実施する定期的な避難訓練のほか、地区防災訓練に参加して連携を図っている。現在、防災面でも町社会福祉協議会と連携を密にし、緊急災害時の安全確保に万全を期すため、地域との具体的な協力体制の構築に努めている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルに基づいた避難訓練をしている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	社協さんと連携についての話し合いをしたり、交流会をしたりしている。	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災訓練には参加している。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	季刊紙の発行や、勉強会の実施に取り組んでいる。				島内唯一の入居施設として地域の期待を受けて設立した経緯があり、関係機関と連携しながらネットワークを着実に広げており、住民に活動が評価されて信頼される事業所になっている。相談支援はもちろん、さくらカフェの取組み、デイサービスやショートステイの柔軟な対応により在宅介護支援の実績を挙げている。地域に発信するグループホームさくらや便りは認知症高齢者の思いを代弁する内容で、認知症ケアの啓発に貢献すると期待される。地域に根差したケア拠点の事業所としての名を確立しつつある。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	◎	さくらカフェ、茶話会などをしている。直接相談もうけている。		○	◎	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	さくらカフェを運営している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	協力している。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	◎	そのようにしている。。			◎	